

平成30年度第1回石狩市浜益区地域協議会議事録

日 時：平成30年4月18日（水） 18：30～20：10

場 所：浜益支所庁議室

資 料：会議次第

平成29年度地域自治区振興事業実績調書	資料1
平成30年度主要施策の概要【浜益区関連】	資料2
石狩市地域公共交通マップ	資料3
石狩市地域おこし協力隊募集要項	資料4

【参考】

石狩、北竜、留萌、増毛の協議会ルート作り周遊観光促す
新聞記事

=会議次第=

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 委嘱状交付
- 4 報告事項
 - 1) 平成30年度浜益支所体制について
 - 2) 平成29年度地域自治区振興事業の実績について
 - 3) 平成30年度主要事業の概要【浜益区関連】について
 - 4) 地域公共交通の活性化について
- 5 協議事項
 - 1) 地域おこし協力隊の募集について
- 6 その他
- 7 次回開催日程について
- 8 閉 会

出席者：24名（委員12名、職員12名） 傍聴者：1名

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会 長	宮 田 勉	○	浜) 支所長	松 田 裕
副会長	大久保 満彦		浜) 地域振興課長	笹 富 雄
委 員	寺 山 広 司	○	浜) 地域振興課観光担当課長	成 田 和 幸
委 員	門 脇 弥	○	浜) 市民福祉課長(併教) 浜益生涯学習課長	宇 野 博 徳
委 員	小 田 則 貞	○	浜) 保健福祉担当課長(兼保) はまます保育園長	若 狭 康 晴
委 員	三 上 正 信	○	兼保) 浜益国保診療所庶務課長	
委 員	辻 カヨ子		浜) 地域振興課主幹	羽 立 欣 一
委 員	羽 立 裕 子	○	浜) 地域振興課地域振興担当主査兼産業振興担当主査	藤 卷 誠 一
委 員	岸 本 紀 子	○	浜) 地域振興課産業振興担当主査兼地域振興担当主査	柿 崎 恵 一
委 員	中 元 義 晴	○	企) 次長(厚田浜益担当) 扱企画課長	本 間 孝 之
委 員	渡 邊 真奈美	○	企) 企画課交通担当課長	上 窪 健 一
委 員	大 浦 浩	○	企) 企画課交通担当主査	鈴 木 徹 哉
委 員	徳 地 克 実	○	企) 企画課厚田浜益担当主任	三 上 恭 平
委 員	石 川 宗	○		
委 員	瀧 勝 明			

1 開会

【笹課長】

皆様、こんばんは。本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。

4月1日の異動によりまして、地域協議会の事務局を仰せつかりました地域振興課長の笹でございます。よろしくお願いたします。

ただ今から、平成30年度第1回浜益区地域協議会を開催いたします。本会議は、協議書第9条第2項の規定に基づき、委員15名のうち、欠席報告が3名おりますが、過半数に達しております。よって、定足数に達しておりますことを報告申し上げます。

それでは、開会にあたり、宮田会長よりご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

【宮田会長】

皆さんお晩でございます。すっかり雪も解けまして、農家も浜もいよいよ忙しい時期に入ってきております。このような中、会議に出席いただきまして本当にありがとうございます。

さて、今週27日の金曜日ですが、いよいよ道の駅石狩あいろーど厚田がグラウンドオープンいたします。地域活性化策として大きな期待が寄せられておりますが、浜益区民としても地域にとって有効な利活用を図りながら、率先して情報発信をしていかなければならないと思っております。館内には、八田美津さんと石黒ご夫妻が製作した北前船とニシン漁を題材としたジオラマが展示されているほか、ふじみやさんの名物どらやきや木村果樹園の100年のリングを使ったラングドジャクッキーが出店されております。是非、ご家族で足を運んでいただきたいと思っております。

29日からは、浜益漁港でふるさと朝市が始まります。皆様も引き続きご愛顧とご支援を改めて、よろしくお願申し上げます。また、もう少ししますと、さくらんぼのシーズンともなります。浜益に多くのお客様が訪れるものと思っております。区民揃って、歓迎の気持ちを持って、親切で暖かいおもてなしに心がけていきたいと考えているところでございます。

今日は4月1日から支所の体制が新しくなり、その報告を始め、平成29年度の地域自治区振興事業の実績と今年度の主要事業の内容について、報告があります。また、本庁企画課より、地域公共交通についての説明があります。また、前回の会議で決定されました地域おこし協力隊の募集についての協議もお願いしたいと思っております。以上、よろしくお願したいと思っております。

3 委嘱状交付

【笹課長】

ありがとうございました。

委嘱状の交付ですが、委員席に備えておりますので、ご了承をいただきたいと思います。

それでは、新しく委員となられました大浦委員から一言ご挨拶をお願いいたします。

【大浦委員】

皆さん、こんばんは。このたび浜益中学校長になりました大浦浩です。よろしく申し上げます。前任校は、石狩市立花川北中学校でした。同じ市内ということで、浜益には、3年前に黄金山に登りました。浜益温泉は2回ほど来たのと、それぐらいしかなかったのですが、これからまた、浜益のいいところをたくさん見ていきたいと思っております。

また、中学校のほうは、この参考資料にもありますが、昨年話し合われたことですが、複式になりそうだと、このままでは来年度、複式になってしまう。そうすると先生方も5人くらい減ってしまうという状況です。何とかそれを食い止めたいとは思っていますが、何かいいお知恵があれば、お願いします。現状としては、生徒16人に対して、一般の先生が8人いて、かなり手厚く教育ができています。これを何とかこの後も維持していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

【笹課長】

ありがとうございました。

それでは、これよりの議事進行については、会長に議長をお願いいたします。

4 報告事項

【宮田会長】

それでは、議事進行を勤めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

はじめに報告事項1)平成30年度浜益支所体制について、事務局から報告をお願いいたします。

【松田支所長】

お晩でございます。今年も新年度が始まりまして、定例の人事異動がありました。地域振興課長に笹さんが配置になりまして、このほか、本庁から、市民福祉課長に11年ぶりに宇野君が戻っていらっしやったということです。それと、以前センターにいた櫻庭さんも11年ぶりに市民福祉課の介護・保健・支援担当に今回の異動で来ています。あと、本庁からは、今日は不在ですが、地域振興課の管理担当に中野という主査が。それから内部異動となりますが、地域振興課産業振興担当に植村さん、市民福祉課市民生活担当に渡邊善仁君という形の異動がございました。支所の中ではそういう形で、この体制をもって、頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

あと、付則ですが、本庁のほうも組織体制が変わってしまっていて、今年度から厚田浜益担当を設け、従来企画課の中で厚田浜益の地域振興の総括の部分を含めてやっていたんですが、別組織を置いて、両区をやっているということになりました。今日、その担当が来ているので、挨拶してもらいます。

【本間次長】

お晩でございます。企画経済部、新たに厚田浜益担当次長ということで、配置されました本間といいます。企画課長も引き続き引き受けるということですが、改めましてよろしく申し上げます。

何をやるかということでございますけれども、今ご紹介がありましたが、両区の地域振興の総括に関するということ、一行で言うとそういうことなのですが、今4月27日には道の駅が開業することになります。うちとしてもその道の駅を核としまして、更なる地域振興と観光振興を図っていきたいと考えておりますので、それに向けての庁内はもとより、関係団体、地域協議会の皆様方、或いは地域の団体の皆様方と共に取り組んでいかなければならないと思っておりますので、そういう意味では、その総合調整役といったことも担いながら、やっていければと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

あと、厚田浜益担当に三上という者が張り付いております。

【三上主任】

厚田、浜益区担当ということで、この4月から就任しました三上です。去年まで、厚田支所で地域振興ということで、主に観光のほうを担当させていただいておりました。今年4月から本庁のほうで厚田と浜益のほうを担当させていただくという形となりますので、今後ともよろしく申し上げます。

【宮田会長】

ただ今、浜益支所の体制、それから企画課のほうからご挨拶がありました。何かお聞きしたいことがありますでしょうか。

なければ次に進みたいと思います。

平成29年度地域自治区振興事業の実績について、報告をお願いいたします。

【藤巻主査】

平成29年度地域自治区振興事業の実績について、ご説明申し上げます。資料をご覧ください。

資料1 平成29年度地域自治区振興事業実績調書 (説明)

【宮田会長】

ありがとうございます。今の説明のほか、各担当から付け加えるような説明はございますか。

なければ、委員の皆さんの方から何かご質問、ご意見等があれば、お受けしたいと思います。何かありますか。29年度の実績でございます。なければ、次に進みたいと思います。

それでは報告の3番にあります平成30年度主要事業の概要【浜益区関連】につきまして、担当より報告をお願いいたします。

【藤巻主査】

平成30年度主要事業の概要【浜益区関連】について、ご説明申し上げます。資料をご覧ください。

資料2 平成30年度主要施策の概要【浜益区関連】 (説明)

【宮田会長】

ありがとうございます。地域自治区振興事業につきまして、項目的には、昨年度と同様、6項目でしょうか。

【藤巻主査】

昨年度と同様です。

【宮田会長】

そのほか、地域自治区振興事業とは別に市の本来の予算で組んでおります主要施策の浜益区に関連する部分で説明がありました。概略的な説明になってはいますが、もう少し詳しく説明を受けたいという部分がありましたら、質問をお願いしたいと思います。

【門脇委員】

今、郷土資料館を直しているみたいだけれど、どういう経緯なのか。

【宮田会長】

今の郷土資料館の工事について、経過と成果を説明願います。

【宇野課長】

生涯学習課長の宇野と申します。資料館の補修については、昨年の大雨災害ということで、一部といえますが周辺の崩れがありまして、土台等の補修と併せて屋根も相当腐食が進んでいるということもあるものですから、それと併せた形で、補修するという経緯となっています。今すでに受注業者が決まりまして、これから補修をしていき、7月末までに完了という運びで今進んでおります。

【門脇委員】

予算額はいくらなの。

【宇野課長】

予算額は、手元になくて、席に戻りましたら数字は分かれますが。

【門脇委員】

どうして、この質問をしたかという、漁に出ていて見たら足場を組んでいて、なんで直しているのかというのから始まり、地域住民が知らない、まして聞かれて、この協議会に出ていて説明ができない。これは、浜益単独でやっているのかも含めて聞きたいと思った。協議会に挙げる事項なのか、それも聞きたいと思い質問した。

【宇野課長】

資料館については、浜益区の施設ということもありますので、予算が本庁の文化財課で付いてあったとしても、そういう情報提供は、あってしかるべきだったと思います。

【門脇委員】

自分の気持ちでは、もしそうになって、そこに予算を掛ける値があるのかという気持ちがある。今直したのに今後、そこに予算を掛けた値があるのか。腹の中を正直に言うと無駄な経費だという話もある。近隣の施設に展示品を移動することも可能ではという話もある。もし、地域おこし協力隊が活動しているのであれば、連携し案を出し合っ、その予算をプラスにもっていければいいと思う。どこで勝手に動いているのかと思っているのが一つ。災害になったから直しますというのではなく、というのは納得ができない。

【宇野課長】

その時の情報提供は、丁寧にするべきだったと思っていますが、そのあたり、区の地域振興は、たぶん色々な側面があっ、産業振興であつたり、人口増の促進であつたり、その中において、文化だとか、歴史とか、そういったものを大事にしているということも一つの浜益区の成り立ちを知るうえで、区民の方に対して非常に大事に思ってもらうことも、こういう歴史文化を大事にすること地域振興の一つであると考えていますので、そういったところの収蔵品を展示物、歴史的なものを収蔵している資料館を適切な管理の下、維持していくことも区の一つの部分なのかという認識でいます。

【門脇委員】

せっかく直すのであれば、そこを課題に入れて取り組まなければならない。そうすれば、もっと金を入れなければならないという方向にもなる。そうしなければ、ここ、浜益に残り生きていく人としては、ただ直ただけで、無駄金だと思ってしまう。

【宮田会長】

主要事業の中にも書いてありますか。30年度事業ですか。

【松田支所長】

災害復旧の29年度の補正で。

【門脇委員】

災害の予算で付いたの。それなら問題ない。それも分からなかった。市が財政難だと言っているから。それなら納得する。

【宮田会長】

災害で被害を受けたところをとりあえず元のように修復するということの災害復旧ですね。

【門脇委員】

それなら納得するけれど、それが分からなかったから、どういう経緯だったのかと思って質問した。

【宇野課長】

門脇委員おっしゃるとおり、外側だけ直して、それだけかと、我々もそのあたり、中身をどうしていくのかと、活用を、ハママシケ陣屋跡地の活用を含めて、考えていきたいと思っています。しっかりと受け止めさせていただきます。ありがとうございます。

【宮田会長】

どうでしょう、このような経過でご理解いただけたでしょうか。

【門脇委員】

もう一ついいですか。海水浴場の監視員詰所は、予算だとか建築するだとかを地域協議会では知っていたのか。本庁が勝手に実施したものなのか、観光協会だとか、地元が知っていたのかが気になっていた。

【宮田会長】

その経緯と今後の計画みたいなものを併せて説明いただければと思います。

【成田課長】

平成29年度の本庁の商工労働観光課で予算を付けて、老朽化だったものですから、どうしようもなく、特に去年、屋根が飛びましたので、もうこれ以上、誤魔化しが効かないということで、ようやく建て直しました。本庁も予算がないものですから、必要最小限の建て替えということで、見た目もシンブルな2階建てにしたということです。確かに浜益では、説明していませんでした。その辺は反省したいと思います。とりあえず、その老朽化した建物の代替として建てたということです。

【門脇委員】

個人的な意見としては、観光として1ヶ月間の間で役に立つものかもしれないが、その予算は、もっと大事な川下のコミセン、柏木のコミセンが老朽化していて、直すより会館のような小さくて平屋でも、まして消防分団も車庫もない、会議室もないという状況で、そういう施設の会館プラス消防分団の車庫、そういうのを考えてるのならいいが、その1ヶ月のものに対して、そこまでのという、勝手に実施して。

今日の協議会のメンバーがいいよと言えば、どうしようもないが、でも、これから浜益に住んでいく中で、そのような古いものにお金をかけるよりは、川下、柏木の小さい会館でも十分だと思う。その複合で消防分団は大切なものだから、それと隣接するのが大事だと思う。今それが頭の中にある。それは、監視員詰所を建てるくらいなら、川下地区、柏木地区のそういうのが大事ではないかという気持ちがある。

【成田課長】

そうですね。地域の課題があるのですが、あの監視所も季節的に短期間しか使わないが、監視所なので2階建てが必要で、高いところから海水浴場全体を見渡すために。

【門脇委員】

それは、無線もあるのではないかと。全部監視塔で見ているのだから、無線を利用しながらできるので、そこまでのものは必要ないのでは。

【成田課長】

今度、無線設備の設備費用が掛かったりする。

【門脇委員】

今ある無線で。その1ヶ月であれば、考え方でリースにより借りてくる建物でそういうことをやるとか、その建物は、いくら掛かるの。

【柿崎主査】

予算額で、11,500千円だったと記憶しています。ただ入札で落ちている部分が300千円くらい落ちていたかと記憶している。

【門脇委員】

それは、市の予算なのか。

【宮田会長】

市の予算です。

【門脇委員】

それには、基金が充当されているのか。市の直接の予算で建物を作っているのか。

【宮田会長】

市の単独予算です。

【松田支所長】

もう老朽が酷く、28年度くらいから補修は要求していたが、なかなか付かなかった。でも腐食して落ちてしまったので、いやがおうにも直さなければならなかったのか、そのようになった。

【門脇委員】

私が言いたいのは、それよりも川下地区、柏木地区のコミセンにお金を掛けるより、消防分団で詰所がなくて会議もできない、車庫もないような状態だから、分団に消防としてはお金が出せないと言われ、そういう会館の施設の横に複合施設みたいなのがほしいという気持ちがある。

【松田支所長】

結局、今ここで言っているかもしれないこともあって、これを止めてこっちに付けてという話までをこの場で決められるわけではなく、無線の話も現実の話でもうしています。柏木にも川下にも自治会にも話はしているの、今、弥が言うように実際、大きな施設を新たにほしいわけではないし、川下の2階建ての部分、皆年寄りが大変だから、何とか小さくてもという話は聞いている。ただ、50,000千円、100,000千円という話になるので、それを単独で作るより、今話しているように、例えば、保育所だとか分団だとか、そういう複合的な部分を併せることで、コストを下げたり、効率的にしたり、どうできるのかを当然考えるので、今はまだ具体的に29年、30年、31年度にすぐ予算化が出来るという段階までは至っていない。そういう話としてはしています。

【門脇委員】

地域協議会の中で、そういう案でも出してもらわないと全然分からない。

【松田支所長】

今回の形みたいに、一応、基金事業だけではなくて、浜益でやるような事業だとかについては、拾える範囲でピックアップをして、皆さんにご紹介しているが、結果的には、付きましたという段階なので、付けるまでにどうしましょうというところをガリガリここでやれていないというのはあると思います。こういう話、聞いた話をもって、来年度に係らず、ずっと予算は続くので、どういう風な考え方を持っていて、どうなんだということを我々支所は、支所でも話をしていかなければならない。そういう風にしてやっていきたい、

【宮田会長】

さっきの郷土資料館のこと、住民によっては疑問に思っている人もいるのかもしれない。やっぱり、きめ細かな説明が必要なのかという気がした。たまたま、今のようなことで聞かれたことがある。

【松田支所長】

本当にできたという結果にどうこうだけではなくて、こういう話で意見が出ていけば、こういう部分については次に組み立てるときに、どういう風に入れられるか、入れられるのと入れられないのがあるので、そういう形で話していくということが大事なんだという気がします。

【宮田会長】

本庁と予算折衝するとき、その前に地域協議会に諮るのもなかなかやりづらい部分もある。付けばいいけれど付かない場合もある。そういうことがあるが、本庁と支所の判断の中で、予算付けされてくると思うが、工夫すれば、まだまだ有効的に付けられるのがあるのではないかというのものもあるだろうし、その辺を地域協議会も含めて住民の皆さんに幅広く聞けるような配慮をお願いしたいと思います。また、詰所につきましては、わずか1ヶ月間ではありますが、やはり海水浴場を期待して待っている住民、業者もいると思いますので、それはそれなりに必要かと私は思う。

【石川委員】

あそこの詰所、ライフセーバーばかりでなく、警察のパトロールをしてきて、それでそこに詰めるのもありますね。

【藤巻主査】

詰めてはいないです。

【石川委員】

だけれど、警らは来るでしょ。前、滝川管轄のときは来ていましたよね。

【三上委員】

北署になってからは1シーズン何回来ているか分からない。

【石川委員】

前は、暴走族などの問題があったから、詰めてはいたけれど、北署になってからそういうことはあまりないの。

【三上委員】

回数は、少ないです。

【石川委員】

今は、思い出したように鳴らしてくるのは、何人かいるけれど。昔を思い出しているなど思っているのだけれど。そういう警察の方での泊まりというのは、今はなくなったのですか。

【藤巻主査】

平成26年度からです。

【石川委員】

そうなれば、ライフセーバーの方、あそこに泊まっているわけではないでしょ。

【三上委員】

渚近くにライフセーバー用のプレハブが建っていますので、無線でやり取りしています。

【石川委員】

そこでは、大げさに言えば司令室みたいな感じで、建てているということだね。

民間のところを借りているところもある。ライフセーバーも体を休める場所が必要なのでは。

【三上委員】

詰所に泊まったら、たぶん寝られないと思う。

【石川委員】

遠くに歩いて寝泊りしているのも見かけたことがあるから、詰所も必要だと思う。また、北署に願う場面もあるのかもしれない。あまりにも騒がしくなり、来てもらえないか相談することもあるだろうし、期間としては無駄かもしれないが、建てておいて無駄だという感じはない。あって然るべきものだと思う。また、予算立ても別個な問題。出る予算も。さっき、門脇さんが言っているように消防分団、地域のコミュニティ、その辺の出処は違いますよね。

【宮田会長】

違います。

【石川委員】

そうなれば、ここの地域協議会での宮田さんが会長になったときに、ここは陳情する場面ではないで

すよと言いました。それをちょっと打開しようとする感じで、発言なされたので、それを基にしていけば、今の門脇さんの言った問題を拾ってくれればという気がします。

【宮田会長】

そうですね。今回の話所の問題もそうですし、資料館も工事が進められておりますので、そのような説明したような内容で、ご理解したいと思います。今後につきましては、やはり大きな事業につきましては、できるだけ住民の皆さんに決め細やかな情報提供をしていただければと思います。不信感も疑問も少しは減ってくるのかという気がします。今後につきましては、別に分団、コミセンの予算付けにつきましては、また別途努力していただきたいと思います。

【寺山委員】

民間アパートと教員住宅の整備事業のことで聞きたいが、民間アパートを建てて一般の方を入居させると思うが、現在も民間アパートに教員の方が何人か住まわれている。例えば教員住宅も直して民間アパートも建てて、また、教員の方が入居して、一般の方が入居できないのは、我々からすると矛盾があると思った。そういう場面というのは、解消されて一般の方が入居でき、例えば、浜益に滞在、移住する人が一人でも増えるだとか、そういう意図でアパートは建てられるのか。それとも教員が、複式に対応するものなのか。その辺を聞かせてほしい。

【松田支所長】

教員住宅の整備というのは、浜益の話で、浜益に関しては、高校の住宅、あの部分が道の持ち物だったので、猶予はあったが、市で払い下げを受けなければならないことがあって、その部分のお金なので、今、住宅をガリガリ整備するというのは浜益としては想定していない。住宅のほうは、おっしゃるようにカーサも市の職員がいれば、北海道の人がいて、いわゆる働く人たちの住宅が足りないの、その部分に関して、今年、もう1軒、2棟目を作ろうという話になっている。なかなかそれも一般住宅なので、職員だけ、教員だけという風には考えていない。

【寺山委員】

作ったのはいいけれど、一般の人が入居できずに教員の方々だけが入居して、終わってしまうのかという感じがする。例えば、福祉の仕事に外部から来ている入居させるだとか、そういうのをイメージしていたが、気が付いたら、先生方が結構入居しているので、だからその辺をうまく活用できればいいのかなと思います。

【宮田会長】

そうではないですよ。

【松田支所長】

なかなか、先生が一番読みきれないのがあって、市の住宅として、4月に転居して来られるが何人いるのか、来年何人来られるのか、人事も絡むので、読みきれない難しさがあります。市の職員のレベルにしたって、今年、知ってのとおり木村さんが退職になって、来年、再来年と3人、3人とすごく退職する人数が多くなってきていて、その辺の部分で言ったら、職員の住宅もどうするのかというのもある。だから、色を付けてしまうと結局ほか、スカスカでいくわけにもいかないし、今回、民間の住宅にしているという部分は、やはり維持管理コストというのは、できることならニーズがあるのだったら、民間が事業としてやっていただくのが一番いいというスタイルでやっています。例えば、カーサさんで言ったら、たまさか岸本さんですよ。岸本さんだって、他の人を入居させたいとなったら、その間空けておくのかという話になる。なかなかそれは、入居したい人がいたらどうぞという話になるので、そういう痛し痒しがあります。

【寺山委員】

事情は分かりました。

【宮田会長】

30年度の主要施策は、初めて委員に提示されているの。

【藤巻主査】

そうです。

【宮田会長】

30年度の今、見ていただいている資料は、初めて皆さんご覧になると思います。ですから、事業の内容について、どういう事業なのかということの疑問がありましたら、どんどん聞いていただきたいと思います。また、住民の方々から委員として聞かれる場合もあると思いますので、疑問な点がありましたら、聞いていただきたいと思います。

【小田委員】

どのくらいの大きさのアパート、何世帯くらいになりますか。

【松田支所長】

予定では、今のカーサと同じ規模で考えています。

【小田委員】

分かりました。

【宮田会長】

そのほか、ありませんか。どうでしょうか。

地域再生マネージャー事業、これの内容をちょっと説明していただければ、ありがたいのですが。

【成田課長】

先月も1回説明しましたが、平成29年度に地域の各種団体の方に入っていて、自分たちの団体の抱えている課題を色々と勉強会をして、課題点を洗い出し、今後の方向性を一定程度見出したものですから、その仕事の引き継ぎとして、この30年度に地域再生マネージャー事業という名目で引き継ぎ事業を行います。要するに地域の各種団体が、これからどうやったら観光まちづくりに動けるかという各種団体の皆さんの得手不得手がありますので、お互いにそれを助け合って、浜益が一丸となって、観光まちづくりを進めていくのを持続的に可能な取り組みとして、自分たちができるような形を作っていきたい。そのために地域再生マネージャーという資格のある方に来ていただいて、色々と教えていただいた中で、自分たちが自ら動くきっかけをこれから作っていくというのがこの事業です。

【宮田会長】

何か集まって相談するときに、その専門の人から来てもらい、そしてアドバイスをもらうということですね。

【成田課長】

そうです。

【宮田会長】

そのほか、ありませんか。

【寺山委員】

ありません。

【宮田会長】

また、疑問点があれば、いつでも構わないので、支所に聞いていただいて結構だと思います。主要施策の概要については、この辺でよろしいでしょうか。

それでは、4番目、地域公共交通の活性化について、企画課から説明願います。

【上窪課長】

お晩でございます。交通担当課長の上窪と申します。あと、交通担当の主査の鈴木です。

【鈴木主査】

交通担当の鈴木です。よろしく願いいたします。

【上窪課長】

今日は、二人でお邪魔いたしまして、皆様のお時間を少しいただきまして、地域公共交通の話をさせていただきたいと思っております。こちらの画面とA4のマップをお手元に配らせていただいております。メインは、こちらの画面で説明させていただきたいと思っております。

資料3 石狩市地域公共交通マップ (説明)
【別途用意したパワーポイント】

【上窪課長】

お気づきの点、疑問点等ありましたらどうぞ。

【石川委員】

そのデータは、時期的にはいつですか。冬場取りましたか。

【上窪課長】

このデータは、10月くらいです。

【石川委員】

じゃあ、冬場取る予定は。勾配もありますよね。

【上窪課長】

冬道のスタッドレスタイヤがないです。課題はあって、まだ、取れていません。取るためには、スタッドレスタイヤのこともありますし、あと、冬道自体レーダーが利くのかななどの色々な課題があります。冬道については、室蘭と苫小牧に開発局の実験場があって、その実験場の中でやられています。雪道の上で実験をしています。大樹町でも雪道の上で実際にしています。

【石川委員】

それは、平らなところ、山あり谷あり。

【上窪課長】

多少の山はあります。実験場のレベルです。

【石川委員】

だろうね。

【上窪課長】

大樹は、若干の山坂があります。雪道も色々な方式があって、レーダーを先に埋め込んでいけば、そのまま上を通る。沖縄名護のパイナップルパークなどは、カートが走っているけれども、そういったところもあって、色々な方式があるのですが、雪道のデータ取りというのは、今後、必ず北海道でやるのが絶対必要なことですから。

【石川委員】

冬場を考えることが、それが第一だよ。

【上窪課長】

引き続き、企業と連携して。

【石川委員】

それを見ていたら、平らなところで、大樹もおそらく平らなところだろう。苫小牧の方もそんなに雪がなくて平らなところだろう。データ取りというのは大概そんなところではないだろうか。先入観があったので、それでちょっと質問させていただきました。

【上窪課長】

雪道だと機械のブレーキが滑ったりだとか、色々な課題があるので、一つずつ課題をクリアしていくために全国でやられていますし、石狩でも積極的にやっていきたいと思っています。

【小田委員】

道路に何か設置しないとイケないのか。

【上窪課長】

今回のものは、道路に全く埋め込まないで、カートの上にカートよりも高いと言われている機械を付けているのですが、そのレーダーがクルクルクルクル回って、360度、1秒間に何十回も回りまして、周りのデータ、歩行者ですとかを感知しながら走っているようなモデルになっています。

【小田委員】

分かりました。

【宮田会長】

そのほか、何かありませんか。楽しみでもあります。

【寺山委員】

今はないですが、何かあったら情報提供をお願いします。

【宮田会長】

そうですね。改めてまた。

【上窪課長】

交通の関係、宇野課長のほうもデマンドバスをやられてますが、何か公共交通の関係であったら、企画課の上窪や鈴木までお電話いただければ、色々今後もお話をお聞きしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

【宮田会長】

ありがとうございます。

それでは、報告事項については、これで終わりたいと思います。

5 協議事項

【宮田会長】

それでは、5の協議事項に入って行きたいと思います。

地域おこし協力隊の募集について担当の方からご説明をお願いいたします。

【藤巻主査】

石狩市地域おこし協力隊の募集について、ご説明申し上げます。資料をご覧ください。

資料 4 石狩市地域おこし協力隊募集要項 (説 明)

【宮田会長】

ありがとうございます。この地域おこし協力隊の募集につきましては、前回、前々回、協議されてきたと思いますが、それに則って正式にこの様な内容で、募集をしたいということです。これまでの方針のとおり観光に特化した専門的な人を募集したいとのことです。ご質問、ご意見等がありますか。

【寺山委員】

ありません。

【宮田会長】

なければ、この方針に則り進めていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

6 その他

【宮田会長】

次にその他について、何かございますか。

【成田課長】

皆さまにお配りした北海道新聞記事のコピーに従いましてご説明します。このほど、石狩・北竜・留萌・増毛がインバウンドに対応するための連携として協議会を設置することになりました。インバウンドとは、外国人が訪れてくる旅行のことです。近頃は、札幌を中心とする道央圏に偏重する外国人観光客による経済効果を全道に波及させるため、外国人観光客の満足度を高める観光ルートの形成や新たなメニューの創出、受入環境の整備など、複数の地域が連携して取り組む観光地づくりについて北海道観光振興機構が支援している状況にあります。この新聞記事にあります「(仮称)北海道ひまわり夕陽ロード形成事業推進協議会」は、事務局を本市の商工労働観光課に置き、今年度これから協議会の中で具体的取り組みが協議されていきますが、概要としては北竜町のひまわり祭りに訪れている多くの台湾人観光客を主なターゲットとして、オロロンラインを活用しながら、留萌市、増毛町、石狩市への周遊を促進しようとするものです。本市のニシンや夕陽、また、来週27日にオープンする道の駅石狩『あいろど厚田』などについても大きなアピールポイントに位置付けています。この事業に係る経費については、北海道観光振興機構から年間500万円の支援があります。市からの支出は予定していません。今月中に大手旅行代理店などが受託事業者として選定され、その事業者と共に事業を展開して行く流れとなっています。我々浜益支所としましても、逐次、この取り組みに参画して行くこととしますので、地域の皆さまにも何かとご相談や、ご協力をお願い等申し上げますこととなりますので、ご理解ご協力よろしくをお願い申し上げます。

【宮田会長】

皆さん、ご質問ありませんか。

【石川委員】

ルート、各所を見て歩くのはいいが、トイレの問題、旅行して来ると、私が勤めているのはガソリンスタンドですが、トイレを貸してくださいと言われても汚いので恥ずかしい、まして和式、外国人の方でも入っていくと、やはり洋式的なイメージがあると思う。だけど、公衆トイレは、国道を見ると川下のコミセンの前、あと、ありそうなのが白銀の滝で、それくらい。

【宮田会長】

池田さんのところも。

【羽立委員】

浜益コミセンのところ。

【石川委員】

浜益コミセン前、トイレだと分かっているのか。トイレの表示ないですね。

【羽立委員】

確か国道に表示が出されたと思った。ただ、非常に分かりづらい。ですから、海幸さんにもトイレを借りに来ます。

【石川委員】

それを考えると、そういう公衆トイレ的なものが、だんだん削減されている中で、もし観光客が来た場合に見て回るだけではなく、飲んだり食べたりして見て歩く、区内だけでもトイレがだんだんなくなっている。まして、白銀の滝の公衆トイレは、冬場、閉ざされ、周りに糞尿があって、用を足したい人は、人のいない陰でするだろうけど、よくこんなところでと本当にびっくりした。冬に開いているのは浜益コミセンのところ、川下コミセンの前は閉鎖している。冬場は来ないだろうけれど、開発局など管轄もあると思うが、連携してトイレについて考えてもらえないだろうかと思う。

【成田課長】

まさしく、ご懸念のとおり旅行者の人が、駐車場やトイレが一番切実な問題でありますので、この協議会が始まって、色々話し合われる中で、絶対避けて通れない問題だと思います。その辺は、これからどんどん議論が進められると思いますし、実際、浜益地区においても公衆トイレの整備が整っていないと感じておりますので、何とかしたいと思っているのが、まさしく観光担当としては、一番強い思いです。白銀の滝のトイレは、年中閉まっているので、我々からも国に対して強く要望していかなければならないと思っています。

【門脇委員】

この事業、厚田の道の駅だけで、浜益は入っていないのでは。

【成田課長】

ここも通りますから。通るお客様から色々とお経済的な効果を引き出したいと思っています。

【中元委員】

トイレの話だと、自宅前の公衆トイレ、トイレの看板が設置されているが、雪解けになると毎日、トイレに来る人がいて、たまたま川下コミセン前にいたとき、看板があるのになぜトイレが閉まっているのかとの苦情を受けた。雪解けになると結構利用がある。札幌方面の人は戻ってセイコーマートに行く。であるならば、看板にシートを被せて利用開始まで隠すか何かの対策をしてほしいと思います。

【羽立委員】

観光バスは、対応できないときに、浜益コミセンに駐車して浜益コミセンを貸していただいている。

【中元委員】

去年は、川下コミセン前にも観光バスが停車して、利用していた。

【小田委員】

4月くらいから開放することはできないのか。

【成田課長】

年度始まりは、手続き上、ぎりぎり。例年のパターンがいいところ。ですから、ご指摘のあった看板系のことについては、反省を踏まえまして今後対応していきます。

【宮田会長】

これは、新しい取り組みですので、皆さんと見守りながら、関心を持ちながら、進めていきたいと思っています。

【宮田会長】

ほかにございますか。

【羽立委員】

浜益コミセン横の国道沿いに浜益の案内看板がありますが、強風で倒れてブルーシートが掛けられて、そのままの状態です。だんだん交通量も多くなってきますので、是非、早めに戻していただければ、うれしく思います。

【成田課長】

非常に重たくて、人力では持つことができない状況です。

【宮田会長】

観光シーズンに入ってきたら、観光客に対する対応が必要となりますので、対応をお願いします。

【宮田会長】

そのほかにございますか。

今日、資料でお配りしています前回のフリートーキングの内容につきまして、この中から大事なものを時間があれば、皆さんでもう少し話し合いたいと思っていましたが、今日はこの辺で締めたいと思いますがいかがでしょうか。

【渡邊委員】

協力のお願ひがあります。はまます保育園で去年私が父母の会会長をしていましたが、そのときに

給食にしてほしいとの話が出まして、1年間を掛けて色々話し合いをしてきました。結果、給食にするのは、ちょっと金銭的にも厳しいとか、学校が夏休み、冬休みになると給食は休みになるけれど、金額はきちんと取られるという面があって、それではちょっと、やりたくないという声が多くて、給食にするということは、叶わなかったのです。それでも何とかしてお母さんたちもそれぞれ忙しいので、少しでも楽になれる機会がほしいなと思ひまして、月に1回、今年度お試しで、ボランティアの方に食事を作って提供してもらおう日を作ったのです。これは、お母さんたちに1日でもお弁当作りを休んで、仕事に専念をしてもらおうというのがありますし、これだけ農水産物が豊富な地域にいるので、地域の物を小さいうちから食べさせて、美味しいね、これは、どここの野菜だよとか魚だよと誰が作ったんだよというのを話しながら、みんなで楽しく食べてほしいなという食育的な面ももったものをやりたいなと思ひまして、5月から月1回、これから始めるのですが、それで、父母の方々にも農家や漁師とかが多いので、そういう方に提供いただけるものがあつたら、提供をお願いしますとの声も掛けていますが、地域の方々にも、例えば、ちょっと野菜が多く採れたからだとか、美味しいものができたから子どもたちにといいことがあれば、是非、提供をいただきたいなということで、よろしくお願ひします。

【宮田会長】

この月1回のお楽しみ試験のボランティアの人は、大体集まったの。人員が確保できたの。

【渡邊委員】

人員は1人です。月1回程度なら私が作るよと言ってくれた方がいます。

【宮田会長】

これは、広報等で周知する必要がありますか。

【渡邊委員】

つい最近決まったことです。

【宮田会長】

住民に対する協力、要請する方法だね。

【藤巻主査】

例えば、地域協議会だよりに載せることもいいけれど、日にちは決まっていますか。

【渡邊委員】

月に1回で、人数も人数ですし、食べる子どもたちも少しあればという感じなので、そんなに食材が集まっても困るかなとも思っています。

【藤巻主査】

毎月何日だとかが決まっていますか。

【渡邊委員】

決めました。冬場はちょっとお休みで、春、夏、秋だけです。

【藤巻主査】

では、何月から何月までですか。

【渡邊委員】

5月から10月までです。

【藤巻主査】

日にちは決まっていますか。

【渡邊委員】

5月は18日の予定です。

【藤巻主査】

月によって違うのですか。

【渡邊委員】

はい。ただ、各月で金曜日にはなっています。

【羽立委員】

園児は、何名いらっしゃいますか。

【渡邊委員】

18名くらいに、ちょこちょこ2歳児も入ってきているので20名くらいはいます。

【藤巻主査】

調理は保育園で行うのですか。

【渡邊委員】

保育園は使えないというか、そのボランティアしてくれる方が、自分で許可を取って場所を持っているので、そこで作ってもらう形です。それで、あくまで1年間お試しなので、試してみて、掛かった食材費を皆で出し合っという形で、できれば、ボランティアで、やってもらっているのですが、ゆくゆくは、きちんと人件費としても出していかないと続けることになってくると心配もあるので、金額とかメニューとかのバランスを見ながら、1年やってみて、続けるか止めるかという話になると思います。

【羽立委員】

以前は、例えば、お誕生日会に先生たちが、カレーライスを提供してくれる形があったと思うのですが、そういうのは今もありますか。

【渡邊委員】

今もやっています。

【羽立委員】

そのときは、まずカレーは出ますよね。そのほかにもということですね。

【渡邊委員】

そのほかにも、月1回こういう日をほしいなと思って、それで今、誕生日会も人数が少ないので、ない月もあるのです。毎月あるわけではないのです。そういうのがあって、お誕生会のような日をもう何日かでも作れたらいいねということで、ちょっと試してみようという話になりました。

【岸本委員】

衛生管理、例えば食中毒の対策は。

【渡邊委員】

お弁当も保管される場所があったかいと不安な面があるのですが、どうしても、うちも飲食店をやっているんで、食中毒警報の情報が入ったときは、ちょっとお休みにするとか、そういう風には対応しようと思っています。でも、何でも心配していたら、話が進まないんで、試しだからやってみようということで、始めることにしました。

【宮田会長】

皆さんにお願いして、必要以上に集まってしまったら、浜益の人はお願いしたら、どっと集まるのでは。

【渡邊委員】

干したり冷凍したりして、いつでも使えるような物であれば、とっても大歓迎なのですが、できるだけ、やっぱり地元の物を食べさせたいというのがあるので、是非是非、頭の片隅にでも入れておいてもらえたらありがたいです。

【宮田会長】

特別にそうしたら、それをお願いするような周知文だとかは、今のところ必要ないですか。

【渡邊委員】

まず、今回は試験的なものなので、これが軌道に乗ってもっと日数が増えるようになったら、是非、お願いはしたいと思っています。

【宮田会長】

ここにいる委員さん方とかに協力ができる方がいればお願いしたいということですか。

【渡邊委員】

今のところはそうです。そんなところを保育園でやっているなということだけ覚えていただきたいと思います。

【宮田会長】

保育所でそういう試みも今、始めようとしておりますので、是非、理解をいただいて、ご協力をいただける物があれば、お願いしたいと思います。

先ほども話をしましたが、個々の課題についての協議につきましては、また次回から考えていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【藤巻主査】

お手元のほうに、前回の協議会以降、本日までの新聞記事等を皆さんに配布しておりますので、ご家庭にお戻りになってからご覧頂ければと思います。

7 次回開催日程について

【宮田会長】

次に次回開催日程について、事務局から提案願います。

【藤巻主査】

次回開催につきましては、会長と協議のうえ、決定しましたらご連絡いたします。

【宮田会長】

ただ今、事務局から提案がありましたとおり、次回開催は後日ご連絡しますので、ご出席のほど、よろしく申し上げます。

8 閉会

【宮田会長】

以上をもちまして平成30年度第1回浜益区地域協議会を閉会いたします。ご苦勞様でした。

平成30年 5月18日議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 宮 田 勉